

# 多文化共生事業事例集

年度

R2

団体名

出雲市

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

C

事業費総額 950千円

子供・教育

事業名

就学前のブラジル人の子ども及び保護者への支援事業

～やさしい日本語・ポルトガル語講座の開催及びコミュニケーション支援員の派遣～

概要

やさしい日本語・ポルトガル語等を学ぶ講座の開催及びコミュニケーション支援員の派遣を行い、保育士・幼稚園教諭のコミュニケーションスキルの向上を図る。

## 事業のポイント

◇ブラジルにルーツがある園児及び保護者との意思疎通時の参考にするため、やさしい日本語・ポルトガル語、ブラジル文化等についての講座を開催した。  
◇実際にブラジルにルーツがある園児を受け入れている保育所・幼稚園に、コミュニケーションの助言を行うコミュニケーション支援員を派遣し、保育士・幼稚園教諭のスキル向上を図った。

## 事業の背景・目的

◇出雲市では、令和2年度に策定された「第2期出雲市多文化共生推進プラン」に基づき、「就学前の子ども及び保護者への支援」を進めている。  
◇ブラジルにルーツがある児童の保育所・幼稚園利用増に伴い、日本人職員とその保護者との意思疎通が難しい場面が増えている。  
◇上記解決のため、職員のコミュニケーションスキル向上を目的とした、やさしい日本語・ポルトガル語、ブラジル文化等について講座の開催及び現場で意思疎通の助言を行うコミュニケーション支援員の派遣に取り組んだ。

## 事業の詳細

令和元年度	全体に対する多文化保育の理解促進
令和2年度	外国につながる児童が多く利用する保育所・幼稚園での多文化保育の実践
令和3年度	新規園での多文化保育の実践・改良

### 【スケジュール】

- 4月～ 県内及び全国の新型コロナウイルス感染症の感染状況を注視し、今年度の事業の内容を検討。
- 8月～ ブラジルにルーツのある子どもを受け入れている公立保育所・公立幼稚園を対象に、コミュニケーション支援員の派遣に係るニーズ調査を実施。
- 9月～ やさしい日本語・ポルトガル語講座の開催に向け、公益財団法人しまね国際センターに講師を依頼。また、本市の多文化共生マネージャーよりコミュニケーション支援員候補者の情報提供を受け、面談を経て5名の支援員を決定。
- 10月19日～2月12日 コミュニケーション支援員を派遣。  
公立保育所1カ所、公立幼稚園8カ所 派遣回数101回
- 10月22・23・26日 やさしい日本語・ポルトガル語講座を実施。  
参加施設数20カ所 参加職員数 計53名
- 11月～ 公益財団法人しまね国際センター職員からポルトガル語の絵本の寄贈を受け、絵本貸出による読み聞かせを開始。  
貸出施設数6カ所 参加児童数297名 貸出保護者数4名
- 12月～ コミュニケーション支援員を1名追加登録。
- 2月～ 各コミュニケーション支援員から活動の感想や来年度への改善点等の意見聴取を終え、今年度のコミュニケーション支援員派遣を終了した。



## 事業実施における工夫点・事業の成果等

◇やさしい日本語・ポルトガル語講座では、講座内容を保育現場で使える挨拶や声かけ、日本とブラジルの文化の違いから起こる保育上の注意点等に設定したことで、多くの参加者から「共感でき、理解しやすかった」と好評を得た。また、コロナウィルス感染防止の観点から会場の密を防ぐため、講座を出雲市内の東・西・南ブロックの3カ所で開催。各ブロックの公立幼稚園を会場にすることで多くの職員が参加しやすくなり、大盛況に繋がった。

◇コミュニケーション支援員の派遣では、園児の登園・降園時や保護者面談時、保育時間中に、公立保育所・公立幼稚園職員と園児又は保護者との間にコミュニケーション支援員が入り、通訳補助を行いながら、意思疎通の助言や現場の職員からの質疑応答を実施した。職員は支援員の助言を受けながら、身振り手振りやさしい日本語、翻訳機を用いたコミュニケーションを実践し、スキル向上を図ることができた。また派遣期間途中に、公益財団法人しまね国際センターの職員から、ポルトガル

語の絵本の寄贈を受け、絵本貸出による読み聞かせも開始した。絵本の読み聞かせをきっかけに、日本の園児たちがポルトガル語やブラジルの文化に興味を持ち、ブラジル籍の園児に質問する場面や、一緒に絵本を楽しむ場面が見られた。職員のコミュニケーションスキル向上だけでなく、園児たちの多文化共生の考え方を促進することができたことは、大変貴重で重要な成果だと思われる。



## 今後の課題・（コロナ禍の状況を踏まえた）将来に向けての展望等

◇令和2年度は、コロナ禍を理由に先進地視察を中止し、やさしい日本語・ポルトガル語講座の開催案内及びコミュニケーション支援員の派遣対象施設を、公立保育所及び公立幼稚園に限定した。令和3年度も全国的にコロナウィルスが猛威を奮っているが、市内及び県内の感染状況を注視しながら、引き続き出来る範囲で、多文化保育に係る講座の開催及びコミュニケーション支援員の派遣を実施する。また、これから新規に外国にルーツがある園児を受け入れる施設が、円滑に園児を受け入れ、保育を実施できるよう、多文化保育事例を学べる機会を設けていきたい。

◇令和元年度にクリア事業を活用して作成した指さしコミュニケーション及び多言語文書作成ツールについて、コミュニケーション支援員の方々に見ていただき、使い方や改善点等について助言を受けた。令和3年度

中に、出雲市内の保育所・幼稚園・認定こども園等の職員や保護者の方から意見を頂き、必要に応じて内容の改善や指さしコミュニケーションシートの増刷、追加配布を図っていきたい。



## 事業担当者のふりかえり

⇒コミュニケーション支援員の派遣事業は、保育士・幼稚園教諭のコミュニケーションスキルの向上を目的に取り組んだ事業だが、保育士・幼稚園教諭、保護者からは、子どもの心情面や発達面、家庭の事情等、翻訳機を用いても伝わりづらい内容のことを相談できる良い機会となり、現場からは次年度以降も事業継続を求める声が多かった。

⇒多文化共生マネージャーの紹介により、コミュニケーション支援員の候補者が早期に見つかったのは、大変良かった。普段から、市内の多文化共生に係る関係者との結びつきを強めていきたいと感じた。